

マタイの福音書 第6章 30節

「きょうあっても、あすは炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこれほど装ってくださるのだから、ましてあなたがたに、よくして下さらないわけがあるでしょうか。信仰の薄い人たち。」

桜の季節が過ぎ、新緑が目立つ頃になると薔薇があちらこちらに咲き始めます。辺り一帯に豊かな香りを放ち春爛漫に彩り鮮やかな光景をもたらします。その鮮やかさも時節が進むと枯れ落ち始めます。時の流れにそくして花の光景は変わり、花弁は地に落ちてゆきます。明日は人の手で炉に投げ込まれるが、咲くべき時に咲き、散る時に散る、命を精一杯表現する姿は愛おしい。

それほど神様は思いを注がれています。ましてや、であります。あなたがたに、よくして下さらないわけがあるでしょうか。ありません。人と比較するならば、何も出来ない野の草、やがてされるがまま炉に投げ込まれる草にさえ、咲くいのちを与え、草独自の装いを備えてくださる神様です。

私たちによくしてくださる神様がお与えになるものにこころを留め、それをもって御前でよく生かされるよう歩みなさいと励まします。その後続く、信仰の薄い人たち、は促しをさらに強化するみことばとなります。